

第 10 回関東 MISt 研究会開催報告

2018 年 2 月 3 日 (土) に丸ビルホール&コンファレンススクエアにて第 10 回関東 MISt 研究会を開催いたしました。脊椎外科医だけでなく看護師、放射線技師などコメディカルの方々にも多数ご参加頂き、盛会のもとに無事終了しましたのでご報告いたします。

今回は本研究会初の試みとして、会の最初にコメディカル参加型セッションを行いました。MISt 手技に習熟した脊椎外科医と熟練の手術室看護師それぞれの目線から、MISt 手技の基本や注意点、セッティングの工夫などをビデオを交えてレクチャーして頂きました。従来法と比べて器械も多く煩雑な MISt 手技を、手術室看護師や放射線技師、ME などのコメディカルと共に成立させるためのポイントが織り込まれた有意義なセッションとなりました。

その後別室で前回に引き続きナースコースが行われました。前述のスーパーナースにも講師として加わって頂き、PPS と LIF の手技を体験して頂きました。

一般演題は PPS、LIF、感染に対する MISt や合併症、BKP と PPS の併用、脊髄刺激やバーチャルリアリティー (VR) 支援手術など、多岐に渡る 11 演題のご発表を頂きました。どの演題も興味深く、フロアからの討議も大いに盛り上がりました。

特別講演 1 では秋田大学整形外科準教授の宮越尚久先生より、脊椎骨粗鬆症の病態とトータルマネジメントについてお話頂きました。長年にわたるご自身の研究データをもとに、基礎から臨床まで、また保存治療から手術療法まで、大変わかり易く明日からすぐに使える内容満載のご講演を頂きました。

特別講演 2 では日本 MISt 研究会の現会長であり、国際医療福祉大学医学部整形外科学主任教授の石井賢先生から、MISt 手技と MISt 研究会の黎明期から現在に至る軌跡、そして今後の展望についてお話頂きました。石井先生の MISt 手技の普及・発展にかける情熱と、MISt 研究会への愛情が詰め込まれたご講演でした。

Best paper award には国際医療福祉大学整形外科の船尾陽生先生からの「バーチャルリアリティー(VR)技術を用いた低侵襲脊椎手術の 3 例」が選出されました。また Best discussor award には久我山病院整形外科の竹内拓海先生が 2 度目の受賞となりました。

第 10 回の節目となる本研究会を成功裏に終えることができたのも、多くの先生方やサポート頂いた共催、旭化成株式会社や協賛して頂いたメーカーの方々のお力添えのおかげと

存じます。また御参加・御発表いただいた先生方、コメディカルの方々には、改めましてこの場を借りて深く感謝申し上げます。

次回、第11回関東 MISt 研究会は平成30年9月1日(土)に独立行政法人国立病院機構村山医療センター 整形外科の松川 啓太郎会長のもと開催される予定です。会員の皆様におかれましては、是非ご参加頂きたいと思っております。

第10回関東 MISt 研究会 会長
済生会横浜市南部病院 整形外科
金子康仁

